

令和7年度 高鍋町立高鍋西中学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価） 4段階評価 【 A・・・よい B・・・概ねよい C・・・あまりよくない D・・・わるい 】

教育目標	「親愛」～誠実・友愛の精神、勤労と奉仕の精神、感動など「豊かな人間性」 「英知」～自ら学び、自ら考え、その学びを正しく生かし「課題を解決する力」 「鍛練」～健康・安全や目標に向かって自らを「鍛え磨く力」
目指す学校像 目指す生徒像 目指す教職員像	○ 明るく、美しく、活気のある学校 ○ 学ぶ意欲を育て、知的好奇心を満足させる学校 ○ 一人一人が存在感のある学校 ○ 地域の信頼にこたえる学校 ○ 自他の良さを認め、友情を育み、個性を生かし協同して活動する生徒 ○ 知的好奇心にあふれ、自ら学び、考え、課題を適切に解決しようとする生徒 ○ 命と健康を大切にし、自ら進んで心や体を鍛え磨く生徒 ○ 生徒とともに学び続ける教師 ○ 生徒と夢を語り、確かな力を付ける教師 ○ 生徒の心をつかみ、気付き、動き、見届ける教師 ○ 生徒の手本となり、尊敬される教師
学校経営 ビジョン	『チーム西中』を合い言葉に、「フットワーク」「ネットワーク」「チームワーク」を徹底して学校・家庭・地域が一体となって「知・徳・体」の調和のとれた活力ある教育活動を推進することにより、「学びたい 学ばせたい 通いたい 通わせたい」学校づくりを推進する。 ★意識してほしいキーワード～【Chance Challenge Change】 【凡事徹底】

評価項目	方策・手立て	評価指標	自己評価			学校運営協議会委員評価		
			指標別	総合	結果や状況の考察	改善策等	コメント	評価
たか な べ 学 校 エ ン パ ワ ー 事 業  子ども一人一人の学力を伸ばすための学校づくり  子どもに寄り添い、子どもの自己肯定感を高めるための特別支援教育・生徒指導の研究・実践  地域が一つになって高鍋町を育てる連携の実践	知 ○「わかる・できる」を実感させる授業づくりの推進 ○ICT活用の意図的・計画的な推進。 ○学ぶ意欲を高めるキャリア教育の推進	○「ひなたの学び」を校内研究に位置づけ、協働的な学びと個別最適な学びの実現に努める。 ○ロイロノートやキュビナを活用した協働的な学びと個別最適な学びの推進。 ○高校のオープンスクールや諸活動への積極的な参加 ○地域人材の積極的な活用	<b>A</b>	<b>A</b>	○教育委員会の先生方や教育委員の先生方をお迎えして研究授業を行い、貴重なアドバイスをいただき授業力向上に役立てることができた。 ○「授業が理解できている」と答えている生徒が90%以上であった。 ○学校はICTを効果的に活用していると感じている保護者が90%いる。	○次年度も「ひなたの学び」やICTの活用について研修を深めていきたい。 ○地域学校協働本部推進員に地域との懸け橋になっていただき、今後も「ひなたの場」や総合的な学習の時間の講師をはじめ、協力を要請していきたい。	○タブレットの宿題内容を保護者にもわかるようにしてほしい。 ○ICTの問題点についても生徒に理解してほしい。操作、活用とも指導の必要がある。生徒、保護者の評価が高いのは良いことである。次年度も継続してほしい。 ○機器を使いこなすことは必要だが、協和の学びはやさしさと思いやりにつながるもので、自助、共助を身につけさせたい。 ○世の中には様々な職業や立場、優劣があることを早めに理解させ、自分の能力、努力が自分を作り、世のため人のためになると自信を持たせる指導が必要になると思う。 ○今年度の学力調査は全国平均から見てもどうだったのか知りたい。 ○町内の高校と連携し、町内の高校に進学する生徒を増やし町全体で学力の底上げ、さらには郷土愛を高めてもらいたい。 ○タブレットを使用した授業が多く生徒もよく学んでいた。 ○今からの時代ICTの活用はさらに比率を高めるべきである。 ○授業改善、ICT活用が着実に進められている。	<b>A</b>
	徳 ○SCやSSW等の関係機関との連携強化 ○道徳教育、人権教育の推進 ○生徒の自主・自立を基本にした生徒会活動の活性化	○生活アンケートの計画的な実施 ○不登校生徒の解消 ○学年職員全員による道徳授業の実施 ○リーダーシップ・メンバーシップによる生徒会活動の活性化 ○学校が楽しいと感じている生徒が80%以上である。	<b>B</b>	<b>B</b>	○SCやSSWとの連携は充分にとれ、改善に向かったケースもあった。 ○道徳は学年職員全員で実施することができた。 ○清掃や学校行事等に積極的に取り組む生徒が83%である。	○今後もSCやSSWを活用しつつ、様々な方面からのアプローチを試みながら、不登校の減少につなげたい。 ○地域の行事や活動への参加を学校でも呼び掛けていきたい。	○不登校対策は急務であるが、改善の兆しはなくむしろ若年層の自殺率は増加している。一人一人がかけがえのない命であることを確かめ合う場を作ることが大切であり、一番必要なことであると思う。 ○改善策のように様々なアプローチを試しながら進めてほしい。PTA奉仕作業にもたくさん生徒、先生方が参加してくださった。 ○正しい人とのかわり方をディスカッションしながら学び、具体的に身につけていく時間を作してほしい。 ○生活アンケートの実施や不登校の解消に向けた取組が行われている。引き続き丁寧な対応をお願いしたい。 ○不登校を未然に防ぐ手立てを今後考えてほしいと思う。 ○各地区とも高齢化や人口減少で行事等も少なくなっている。地区に加入していない保護者も増えているので生徒が地域行事に参加していくためには保護者へのアプローチも必要だと思われる。不登校数の増減について知りたい。原因についても学校運営協議会で熟議できるとよい。校内でのあいさつは良いが、外で知らない人に挨拶ができない生徒が増えた。	<b>B</b>
	体 ○スクールスポーツプランに基づいた継続的な実践と部活動との連携 ○全職員による給食指導のマネー育成と食育の推進 ○安全教育の充実による安全意識の高揚と危険回避能力の育成	○体力テストのスコア50以上の生徒が60%以上 ○給食の残食を1日平均2.0kg ○朝食抜きの生徒ゼロ ○交通事故等の撲滅 ○関係機関を活用した安全教育の実施	<b>B</b>	<b>B</b>	○体力向上プランのもと、体育の授業や昼休みの体育館開放の実施等で体力の向上を図ってきた。 ○「早寝 早起き 朝ごはん」を実践している生徒は81%、保護者が77%でほぼ同じ回答だった。 ○SPSに再認証され、生活、災害、交通の3分野にわたって安全について活動している。年3回、交通安全教室を実施している。	○昼休み時間に屋外で遊ぶことも推進していきたい。 ○規則正しい生活を送るよう保護者にも啓発を行う。 ○子どもたちの自主的な活動や、地域と連携した取り組みも実践したい。	○意欲をもって運動に打ち込める環境を作ることには大切。受験対策中心で体力向上に取り組める時間が制約される中での工夫がされている。 ○給食試食会に参加したが、地場産の食材を使用したバランスの取れた給食だった。食育の推進と残食を減らす工夫をお願いしたい。登下校中の事故がないよう見守り隊と連携した取り組みの実践をお願いしたい。 ○体力向上と精神向上は両輪。苦手意識をなくするための成功体験を重ねていく場があるとよい。 ○健康安全に関する取組が計画的に行われている。生活習慣のさらなる定着に期待したい。 ○徒歩、自転車等の交通ルールは守れている。スマホ利用等保護者向けの勉強会も増やすべき。スポーツをしている子としていない子の体力差解消のために全校で体力づくりの時間をするのもよいかも。 ○メディアコントロールについて学校の取組が知りたい。	<b>B</b>
読書活動の充実	○ 読書の時間や町・県の図書館活用事業を有効に活用する。 ○ 1・2年生は1か月で2冊以上、3年生は1冊以上の読書をする。	○ 読書の習慣ができている生徒が35%であり、読書の習慣が身に付いていない。 ○ 意図的に読書をする時間を設ける。	<b>C</b>	<b>C</b>	○朝読書を再開させてほしい。決まった時間に必ず読書をする決めてら定着するのではないかな。 ○文科省の調査によると、35%は全国平均に近い。全く読まない生徒を少しでも読ませるようにすること。新聞の活用。 ○読書量の減少は全国的に言えること。35%は多いほうかと思う。 ○各自の趣味嗜好にそった本の選び方や人生に絶対必要な本を具体的に指導すべき。 ○環境づくりの工夫により読書に親しむ機会が増えることを期待したい。 ○紙の本を読んでほしいが今はタブレット等でも読書できるのでは。調査にはデジタル媒体も含まれているのか知りたい。	<b>C</b>		
心豊かな生徒の育成	○ 互いに尊重し合う集団づくりを行っていく。 ○ 気配りや思いやりの心をもって人に接している生徒が80%以上である。	○「友人に優しく接している」と思っている生徒が97%であるが、今後は生徒の様子を注視していきたい。 ○すべての教育活動の中で、人権に関する意識を高めていきたい。	<b>A</b>	<b>A</b>	○学級内での小さなトラブルがあったようだ。人権に関することについては特に学んでほしい。 ○とても高い数字だと思う。指導の賜物だと思う。大変すばらしい。 ○西中の生徒は優しいと聞く。積極的に自分から恥ずかしがることなく声かけできる子どもであってほしい。良好な人間関係作りが進んでいる。 ○スマホを持っている生徒が多いと思うが、表に出にくいSNS等でのいじめも問題になっている。ネット内での友人とのやり取りの仕方等の授業も増やすべき。	<b>A</b>		
体力向上の推進	○ 部活動・社会体育クラブ加入率をさらに上げる。 ○ 部活動（文化部を含む）・社会体育クラブ加入率が70%以上である。	○本年度の校外活動を含む部活動の加入率は57%であり、昨年度の65パーセントより若干減った。 ○部活動、校外活動未加入の生徒の基礎体力の増進を図る。	<b>B</b>	<b>B</b>	○校内外問わず体力向上推進のために有効な団体や施設の利用を促す。 ○57%はやや少なめ。子どもの居場所が少なくなるのが心配。 ○基礎体力を身につけるにはいろいろな方法があると思う。 ○競争意識の向上と成功体験の積み重ねが自信と優しさにつながる。 ○全ての生徒が日常的に体を動かす機会を確保することが重要。 ○生徒数の減少により単体での部活動運営が難しいのでは。東中との合同部活動など選択肢を増やすとよいのでは。 ○社会体育クラブの拡充をのぞむ。	<b>B</b>		

防災教育の推進	○ 避難訓練や防災の日の取組を計画的に行う。	○「学校は、安全な登下校や身を守る態度の育成に努めている」が80%以上である。	<b>B</b>	○先述した SPS の機能を生かしていきたい。 ○生徒・保護者ともに「安全意識・危機管理」意識は90%以上だった。	○自分で考えて行動することを推進したい。 ○無言で行動するべき時のけじめをつけさせたい。	○とても意識は高い。自分で行動できる生徒を育ててほしい。 ○自助が大切。自分で考え自分の身は自分で守る指導を。 ○自分を守り人を守る。危機管理には具体的シミュレーションを。 ○実践的な取り組みの継続を期待。日ごろの訓練が必要。 ○生徒保護者の防災意識は高くなっている。自助の意識は高いが共助の意識が心配。避難所運営では中高生の力が必要。町や地域単位での訓練の参加を促してほしい。	<b>B</b>
---------	------------------------	---	----------	--	---	---	----------

**【次年度の方向性についての校長所見】**  
知、徳、体全てにおいて、いわゆる「まあまあ」のレベルを脱却できていないように思う。自己評価で最も推進できているのは ICT 活用や授業改善なのでそこは次年度さらに伸ばしたい。心と体の成長については、学校運営協議会委員の方々からいただいたアイデアを参考にしながら工夫を重ねたい。また、伸び悩んでいる読書活動については、現在行っている読み聞かせや町図書館の活用を具体的に考えてみたい。そのほかの面でも、保護者や地域から今以上にアイデアやお手伝いをいただきながら、地域の学校として貢献できるようにしたい。